

# 課題 1 ひらがなの単語の音を分解・抽出する

単語レベル

学習の  
ポイント

言葉の音のイメージ（音韻）を操作する力を形成するために、音記号カードを用いて指導を行う。指示に従って音記号カードを配列・分解したり、音記号カードに対応する音を言わせたりする（抽出）課題を行う。聴覚記憶が弱い子どもでは、音韻操作が苦手なので、音の分解と抽出の指導を丁寧に行う。

準備する教材 音記号カード、単語カード①～③、問題シート \*単語カード④⑤（CDのみ）

CD

## 指導内容

指導 1・2とも、指導が終わったら、他のカードでも指導を繰り返す。

### 活動の流れ

#### 指導 1（音の合成）

- ①子どもに単語カード（絵カード）の「からす」を見せながら音記号カードについて説明する。
- ②子どもに、音記号カードを5枚渡す。（絵カード）を見せて、絵があらわす言葉を、音記号カードを使って組み立てさせる。



#### 指導 2（音の抽出）

- ①指導者は手元に音記号カードを用意し、子どもに（絵カード）を提示する。
- ②指導者は絵があらわす言葉を発音してから、音記号カードで言葉を組み立てる。

### 指導の方法と指導上の留意点

#### 指導 1

- ①
 

《説明》  
「この音記号カードは、文字の音をあらわします。この絵は、『からす』です。「からす」の音の数だけ、手をたたいてみましょう」  
↓（手をたたかせる。）  
「一つ、手をたたくことは、この黒丸（●）一つと同じです。だから「からす」は、三つの黒丸ですね。」

- ②
 

・「うし」「くり」「たぬき」「にわとり」で行う。

#### 指導 2

- 《ポイント》  
音のイメージ（音韻）を操作することがポイントとなる。音のイメージを音記号カードに置き換え、単語になるよう配列させる。また、音記号カードに相当する音も言わせる。

### 活動の流れ

- ③音記号カードのうちの1枚を指さし、「この音はなんですか」と質問し、口頭で答えさせる。
- ④指導者と子どもが役割を取り替えて、①～③を行う。

#### 指導 3（単語の読み）

- ①単語カード（言葉カード）①～③を短時間提示し、子どもに読ませる。

#### 指導 4（音抽出で言葉づくり）

- ①指導者は手元に問題シートを用意し、これから行うことの説明をする。
- ②問題シートにある言葉(1)と言葉(2)の二つの言葉をゆっくりと言い、子どもに答えとなる言葉と言わせる。

単元 1 ひらがな（清音・濁音・半濁音）		
問題シート		
言葉(1)	言葉(2)	答え
いえ	いす	えき
うし	うま	しか
おに	おの	にく
かき	かめ	きく
くり	くし	りす
さる	さめ	るす
せみ	せき	みみ
ねこ	ねぎ	こめ
なす	なし	すし
はち	はし	ちず
へび	へそ	びわ
ぶた	ぶり	たこ

### 指導の方法と指導上の留意点

- ③
  - ・課題が難しい場合には、絵のあらわす言葉と同じ単語カード（言葉+音記号カード）を使い、子どもに発音させる。それから③を再度行うが、「言葉+音記号カード」は、裏返しておく。
  - ・「【た】の音はどれですか」などと質問し、子どもに、音の場所を指でささせる課題も行う。
- ④
  - ・指導者は、ときどき間違えて、子どもに正答を言わせる。

#### 指導 3

- ①
  - ・フラッシュカードのように提示していく。

#### 指導 4

- 《ポイント》  
指導 4 の課題も、音韻操作の課題となる。

- ①
 

《説明》  
「これから、二つの言葉を言いますから、その言葉のはじめの音どうしを組み合わせた言葉をつくって、その言葉を声に出して言ってください。例えば、『あめ』と『りす』ならば、『あ』と『り』で、『あり』になります」
- ②
  - ・課題が難しい場合には、問題シートの答えの部分（シートの左側）を折って隠し、言葉(1)と言葉(2)だけを見せて、手がかりとさせる。